



バラの会
松坂 昌應 議員

問

島原版 コンパクトシティ

Q 車社会の進展に伴って広がった街はインフラ維持に費用がかかり過ぎる。これ以上街を郊外に広げるのはやめ、街なか居住への誘導を図り、中心地に集約していかうというコンパクトなまちづくりに向かう流れである。島原版コンパクトシティについて市長の考えは。

A 高齢化社会を迎える中、コンパクトシティの考え方が必要性を増している。拠点間を結ぶ都市計画道路の整備や地域公共交通ネットワークを駆使し、コミュニティバスやデマンドタクシーなどの足を確保する中で、都市機能を集約した地域を形成していくことがこれから求められるコンパクトシティの考え方だと思

問

歩行回遊型観光

Q 島原城の入場者数は、年間二十一万三千八百人、うち徒歩入場者は二万五千五百二十二人である。

Q 島原の中心市街地は観光資源が点在し、歩いて回るのにふさわしい。適当な場所で車を止めて、（あとはコミュニティバスや）歩行回遊での観光はいかがか。パーキング拠点として、ゆとろぎの湯駐車場や新庁舎の大手広場はどうか。

A 島原は歩いて回るのにいいところだとお褒めの言葉もいただいている。武家屋敷・島原城・湧水群・清流亭・四明荘など観光資源を歩いて回れる。ゆとろぎの湯の駐車場も起点になりうるし、市庁舎建設が完了すれば、大手広場がパーク・アンド・ライドの拠点となり、大手広場からゆとろぎと島原城に行つてほしい、商店街の中にも入り込んでいただきたい。

【その他の質問項目】

○誰のための市役所か

○一人住まいのお年寄り

○年金生活者等支援臨時福祉給付金

○島原城観光一元化について（売店の扱い）

問 | 本市の防災について



公明党
永尾 邦忠 議員

Q 熊本地震では宇土市の庁舎は使用できなくなった。防災、避難の拠点となる本市の庁舎建設計画に変化はあったのか。また、国の補助制度はないのか。

A 現位置で災害に強い庁舎の建設を進めていきたい。国財源については市長会で要望を続けているが、現在のところ庁舎に特化したものはない。

Q 緊急防災・減災事業債の制度の活用はできないのか。

A 庁舎の新築、建てかえには活用できないが、庁舎を防災拠点と考えることで活用できないかと要望活動が続けている。

Q 津波、高潮対策についてはどうか。

A 船津地区において、県とともに護岸や河川の堤防かさ上げ、締切堤防と排水ポンプ場の設置、防災道路や広馬場下の埋め立て等を計画して

問 「食品ロス」について

Q まだ食べられる状態の食品が廃棄される「食品ロス」について、本市の状況は。

A 本市の状況は把握していないが、国が東京都と大阪府で実施した調査では、食品使用量に対する食べ残し量の割合は、食堂・レストラン関係で三・六％、結婚披露宴関係で十二・二％、宴会関係で十四・二％となっている。

Q 都市部を中心に「子ども食堂」が広がっているが、子供の孤食の状況はどうか。

A 朝食は大人と一緒が約六十％、一人または子供だけが約四十％で、夕食は大人と一緒が約八十九％、一人または子供だけが約六・八％となっている。

Q 食品ロスを活用できないか。また、子供と高齢者の食対策ができるか。

A 子ども食堂ではないが、独居老人と子供たちが一緒に食事ができる市民食堂のような方向性は意義があると思う。

【その他の質問項目】

○便利なアプリについて

○家庭ごみの回収について